

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	025	河川	施策	070	治水・河川環境の整備	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	----	----	-----	------------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
151	河川環境の改善・水害防止と、自然河川づくりを推進します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	河川環境の整備（単位：箇所）	3	2	1	0	0	1	3	0	0	基準値：H25 ※河川浚渫等
	自然河川の整備（単位：件）	0	2	2	2	2	2	0	0	0	基準値：H25 ※ハサンベツ川及び支流環境整備
	円山地区排水路修繕工事（単位：件）	0	1	1	1	1	1	1	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	円山地区排水路修繕率（単位：%）	585	28	28	47	47	56	56	64	0	H29変更、L=585mに対して修繕を行った距離の割合
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 流水機能を確保することは、水害防止にもなり町民の安全が守られる。 ハサンベツ地区における自然環境の整備は、自然体験等の貴重資源と考えられる。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 町河川においては町の管理が当然と考える。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 町河川の維持改修には他事業も無く、代替案も無いため最適な実施方法と思われる。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 主に道単価、歩掛等を使用した改修しており適切と思われる。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 水害等から町民の生活を守るとの観点から、特定の個人団体には偏っていない。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	町内会・自治会からの整備要望の提出してもらい、改修・修繕の必要な箇所について把握しやすくなった。
課題・問題点	パトロール等の目視で確認出来ない部分も多い。延長も長く、年々要望箇所が増えており、限られた予算の中では対応出来ない箇所多数。
改善策	定期的に河川環境の集中確認等、より細かく確認作業をするしかないのでは無いかと思われる。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 河川環境の適正な維持管理を図るため、定期的なパトロールや計画的な整備を行うこと。また、国及び道管理河川の適正な維持管理並びに落差工の解消など、豊かな川づくりに向けた要望活動を展開すること。
	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外